



中国揚子江方面の泥沼地帯を行軍する部隊

語り継ごう、 戦時中のできごと

○星桜会とは…

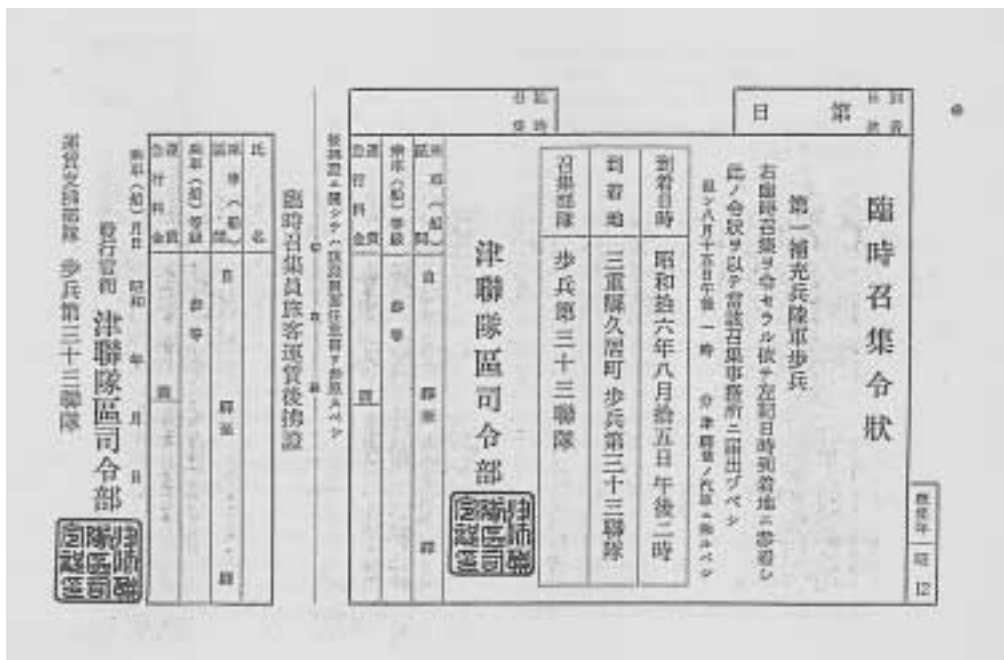
昭和45年に発足し、戦争体験者と戦争の苦しさ・はかなさを語り継いでくれる人たちで構成し、親睦と戦没者の慰霊を目的とし、91歳から56歳まで会員男女130人。ハーモニカやカラオケ囲碁将棋などの活動をされています。

会長 杉村勝雄さん

終戦から57年が経過しました。物があふれ、不自由のない毎日の平穏な生活に慣れた私たちですが、過去の悲惨な戦争体験を忘れつつあります。この戦争体験を風化させず、つらい厳しい思いを次の世代に語り継ぐことは大事なことです。

長地東堀の星桜会みなさんに、当時の忘れることのできない話をさせていただきました。

※戦争の写真は、全て昭和18年刊海軍作戦写真記録より。



「赤紙」といわれた召集令状

集まっていたいただいた方の体験

- ◆満州国境からトラック島へ派遣された。
- ◆北京郊外からベトナムで4年半従軍した。
- ◆東満州から沖縄、台湾と移動したが4年間敵に銃口を向けた経験はなかった。

- ◆東満州で穴蔵生活で、軍靴巻脚半で何か月も過ごし、洗米を食べたことがなく、腸ねん転で同僚の多くが亡くなった。迫撃砲で落馬し、気がついたら病院船にいた。
- ◆揚子江南岸の米の多産地域で、秋になると米の奪い合いの戦争をした。
- ◆愛知で軍属の仕事をしていたが、B29爆撃機の攻撃を毎週受けた。300機で来て、1トン爆弾を投下し火の海であり、日本の高射砲は届かず、アメリカの飛行士は、サンダル履きで操縦していた。

- ◆17歳でゼロ戦工場にいた。その後、松根油を掘っていた。松根油からオイルを採った。
- ◆小学生だったが、授業ができず学校の庭で大豆を作ったり、桑を煮たり、松本の飛行場作



- りをしていた。
- ◆戦時体制化で企業の経営は骨抜きで、飛行機の落下タンク（ベニヤ製）や機関砲の玉などを期限は絶対命令で徹夜で作られ、みんな栄養失調であった。
- ◆岡谷自動車学校のところでは、風船爆弾を作った。紙にコンニャク糊を塗り、水素ガスを入れ、アメリカに飛ばした。

- ◆15歳であったが、上高地へ白樺の皮はぎに、12里の道を半分麦の入ったむすびを持ち毎日往復した。腹が減り、途中、桑のグミや虫がいると捕まえて苦いが食べた。それを食べないと生きてはいけなかった。菜っ葉の塩漬けや蛇、ウサギを食べた。白樺の皮から航空燃料が取れた。
- ◆ヤギやウサギの餌で土手には1本の草も生えて無かった。
- ◆南洋ラバウルで木の大砲が登場し、敗戦を予感した。

◎今では考えられない、二度とあってはならない様々な体験の中から悲惨な戦地に足を運んだ話を主に、会員の手記を紹介させていただきます。

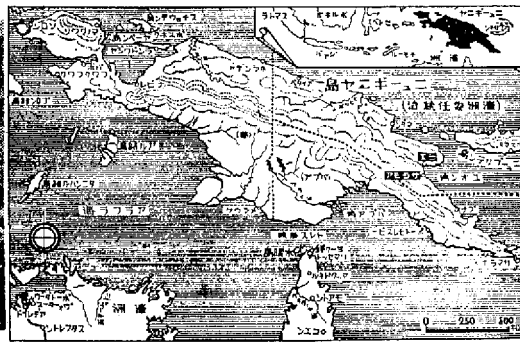
海軍の思い出（悲慘な戦争）

昭和17年3月5日、第六水雷戦隊旗艦の夕張は駆逐艦6隻と、ニユーギニアのラエ攻略を目指す陸海軍部隊を乗せた8隻の輸送船を護衛して、ラバウルを出港した。

■3月10日（火）快晴

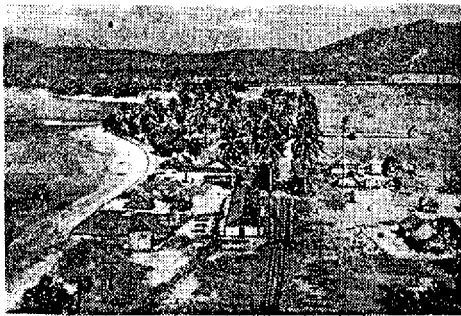
今日は陸軍記念日なので、酒樽

要衝・サラモアとラエ確保



（昭和17年3月13日 東京日日新聞の写し）

ニユーギニアに敵前上陸



避できた。

8時25分 敵機の爆弾により前部艦橋の下で火災発生、死傷者多数、間もなく鎮火する。

8時26分 右60度戦闘機10機、艦首より5機突込み爆弾投下、命中せず。ロッキードに我が銃弾命中、火災発生墜落する。

8時29分 左側中部ドラム缶に敵弾命中、火災発生火災熾烈。

8時30分 右150度戦闘機2機、爆弾投下後機銃掃射してくる。

8時31分 左側魚雷発射台付近にまで火災延焼、機銃発射台にも飛火、魚雷爆発の恐れあり。海中投棄せよ。

8時32分 魚雷発射するも、火災により一部溶けつつあり発射不能。

8時33分 決死隊を編成し魚雷を鎖で引つ張り出し海中投棄成功、約20分余りを要した。この間敵機の攻撃を受けながらの作業で困難を極めたが傷者のみ。

8時34分 後甲板に搭載している対潜水艦攻撃用の爆雷2本海中投棄。

8時35分 右30度敵戦闘機5機来襲、爆弾投下、機銃掃射。

8時37分 左60度敵戦闘機9機来襲、爆弾投下、機銃掃射。

8時38分 左180度敵戦闘機2機来襲、爆弾投下、機銃掃射。

8時39分 左中部の火災鎮火。

8時41分 艦橋上空に爆弾投下されるも命中せず、機銃掃射を受け負傷者多数、血の海と化する。

8時42分 戦闘機左100度10機空襲二手に分かれて左右から同時攻撃を受けるも回避す。

8時43分 これに応戦の我が機銃員殆ど傷つき、弾も使い尽くす。主砲も対空弾皆無の連絡あり。照明弾を撃て。我が方の力尽きたるを知ったか、敵戦闘機は艦すれすれまできて機銃を撃ち、手を振ってゆくのが見える。情けない、もう終わりか。一瞬そんな気持ち脳裏を走る。

8時45分 左95度9機、左170度9機来襲、爆弾投下、機銃掃射。

8時50分 左160度2機来襲、爆弾投下、機銃掃射。

8時52分 右150度11機、艦首より4機来襲、爆弾投下、機銃掃射。

8時54分 艦橋付近機銃掃射を受け、副艦長T中佐腹部に命中、倒れる。私は後ろにいたので、直ちに倒れかかる中佐を抱きかかえて艦橋から医務室へ運ぶ。6畳間くらいの医務室は多くの負傷者で一杯で、床上約10cm位が血の海であり、その中に戦死者が寝ているという実に悲惨な状況であり、3人の医務員だけでは手が届かない。応援を依頼され私は直ちに艦橋に取って返し艦長に報告する。4名応援派遣。

8時57分 駆逐艦朝風火災発生、